

年末大掃除の季節がやってきました。今回は、この時期に多く出されるごみなどの排出方法をご紹介します。大掃除で出たごみもきちんと分別して正しく排出しましょう。

○ビン類・缶類

ビン類・缶類（缶詰や菓子缶など含む）はごみではなく資源物です。正しくリサイクルしましょう。

○粗大ごみと大量ごみ

家具などの粗大ごみや一度に大量のごみ袋をごみステーションに出すことはできません。これらを処分する場合は、胆江地区衛生センターに直接持ち込んでください。（有料）

○蛍光管・乾電池

市役所本庁および各総合支所（胆沢・衣川は乾電池のみ）、水沢・江刺地域の各地区センターに備え付けの回収箱に入れてください。※前沢、胆沢、衣川地域の人は、各地域のごみ排出カレンダーをご確認ください。

○ボタン電池・二次電池（充電式電池）

ホームセンターや電気店に回収箱があります。

○小型家電

ゲーム機器、電卓、ポータブル家電などの小型家電は、市役所本庁、各総合支所および各地区センターの回収箱に入れてください。

ごみと資源、年末の大掃除も きちんと分別しましょう

○大型家電（廃家電4品目）

テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機、エアコンは、リサイクルが義務付けられている家電です。ごみステーションに出すことはできません。

■問い合わせ（一財）家電製品協会 家電リサイクル券センター（☎ 0120-31-9640）

○ガラス製品・陶磁器類

紙などに包んで「われもの」などとフェルトペンで大きく書いて燃えないごみに出してください。

○消火器

ごみとして出すことはできません。メーカー、販売店などでリサイクルしてください。

■問い合わせ（株）消火器リサイクル推進センター（☎ 03-5829-6773）

◎ごみの分別に迷ったら

燃えるごみ？ 燃えないごみ？ それともリサイクル？ 迷ったときは、市のホームページで確認できます。ごみの分別方法が品目ごとに紹介されています。日々の分別にご利用ください。

[トップページ](#) ⇒ [くらしの情報](#) ⇒ [ごみ・リサイクル](#)

■問い合わせ＝本庁生活環境課
生活衛生係（内線 215）、各総合
支所市民環境課



平成30年も12月となりました。今年は皆さまにとっても、なんな一年だったでしょうか。米大リーグに二刀流で挑戦している大谷翔平選手が、見事「新人王」に輝きました。大変うれしく誇りに思います。また、先月開催されたトークイベント「翔タイムーいわて奥州からエール」に大勢のファンが集い、一年を振り返りました。大谷選手の来季の活躍も目が離せません。

先月、スペインカヌー連盟の幹部と日本カヌー連盟の成田昌憲会長が奥州いさわカヌー競技場を視察されました。本市は2020年東京五輪のカヌースラローム競技の事前キャンプ地に名乗りを上げています。両連盟の評価は上々です。世界にも誇れる本市のカヌー競技場を、キャンプ地として利用いただけるよう働



き掛けてまいります。

名古屋市が進める名古屋城天守閣整備に、前沢生母の月山松が使用されることになり、同市の河村たかし市長が現地を訪れ、伐採作業を視察されました。月山松は地元の皆さんが大切に育てた樹齢300年以上の巨木で、天守閣の最も長い梁に使われることになっていきます。完成した際には、ぜひ見に行きましょう！

北海道胆振東部地震で被害を受けた姉妹都市の厚真町と長沼町を訪れ、義援金を送りました。市民からの義援金が104万円、よさこい団体からの寄付金が20万円、市からの見舞金200万円になりました。皆さまの善意に心より感謝申し上げます。一日も早い復旧復興を願うとともに継続的な支援を行ってまいります。

盛岡で行われた初競りで江刺の高級リンゴ・サンふじ1箱10キが過去最高額に並ぶ130万円で落札されました。生産者が丹精込めて育てた自慢の品を、全国にアピールしてまいります。

奥州市長 小沢昌記

We support the

希望の ひかり

第61回

ILC（国際リニアコライダー）計画の各種最新情報をお届けします

早々に政府の意思表明が必要

ILC計画が世界の協力のもとに実現されるためには、ヨーロッパの素粒子物理の戦略にILCが盛り込まれることが必須となっており、早々に日本政府が前向きな方向性を打ち出す必要があります。

現状、日本学術会議の検討委員会は回答を取りまとめつつありますが、推進派の研究者組織から「この回答案には事実誤認がある」との指摘がなされ、引き続き議論されています。

本市を含むILC建設候補地周辺自治体8市町は11月30日、首長による連名で日本学術会議の会長宛てに意見書を提出し、建設候補地周辺自治体のこれまでの取り組みにつ

いて理解を求めました。同検討委員会は、年内にも最終回答をまとめる方針で、その後、学術会議の幹事会での了承を経て、文科省へ提出されます。政府はこれらを踏まえ対応を決める見通しです。

世界の学者が後押し

10月下旬に米国で開かれた国際会議で、世界の素粒子物理学者らは、ILC計画の日本での実現に向け、あらゆる努力を惜しまないとの強い決意を表明する声明として次の「テキサス宣言」を発表しました。

★ILCは、新たな革新的技術の源泉である。我々が研究を進展させることに伴い、広く科学と社会に利益がもたらされるのである。

★日本政府がILCを誘致する意思を表明すれば、我々は必要な国際合意を得るため、それぞれの政府に対してこれまで以上に集中的に働き掛ける。我々は、前進するための合図を待ち望んでいる。

ILCサポーターズ 6万人署名達成！

市ILC推進連絡協議会では、市民総参加の誘致運動として署名運動に取り組み、目標としていた6万人を達成しました。市民の思いを政府に届け、ILCの早期実現を力強く後押しするため、集めた署名を11月29日に東北ILC推進協議会に提出しました。



高橋代表（左）に61,855人の署名を提出する小沢市長

市議連 ILC看板設置（東水沢中） ～ILCと共に未来へ～

市議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟（渡辺忠会長）は、市内全域でのILC誘致への機運醸成とILCのさらなる普及啓発を図るため、市内中学校作成イラストによるPR看板の設置を進めています。本年度は4カ所に設置する計画で、1カ所目が東水沢中学校（高橋勝校長）に完成し、お披露目されました。看板を描いた3年生の及川千尋さんと木元睦実さんは、「私たちの看板が誘致の力になればうれしい」と声を弾ませました。また、渡辺会長は冒頭の挨拶で「ILC関連の仕事を夢見る子どもたちの声もよく聞くようになった。現場の生の声を届けるとともに、地元の機運をさらに高めたい」と力を込めました。



市議連の役員と東水沢中美術部の皆さん

けにはいかない。今回の6万人という数は本市としては相当な数。全国からの署名と合わせて、政府にお届けいただきたい」と署名を託しました。同様に署名運動を行っている東北ILC推進協議会では、全国の署名を取りまとめ、30万人署名として政府に提出・要望する予定。高橋宏明代表

は、「ILCはいよいよ最大の山場。大震災からの恒久の復興策ともなるプロジェクトであり、東北としては待望のプロジェクト。今回いただいた署名は、国内のその他の署名と合わせ、近く政府官邸にお届けする。政府の誘致表明に強力な後押しとなるだろう」と力を込めました。